エディトリアル

日光市民病院 管理者　杉田義博

2018年８月号に「診療所の診療機器」と題して，診療所で頻用されるローテクの機器（道具？）を取り上げた際に，次はもう少しハイテクを使った道具やICTを利用した機器を紹介しようと考えていた．そこで今回は各方面の専門家に，限られた環境での診療が求められる診療所，特にへき地や在宅医療の現場で役立つさまざまな「ちょっとハイテクな電子機器」の原理と使用方法，診療上のメリットと保険適応や採算性，可能な範囲でお薦めの機種まで記載していただくようお願いした．

まず畑地治先生に，高齢化が進むとともに増加しているCOPDや喘息等の管理に重要な呼吸機能検査を，診療所でも行うことができる機器を紹介していただいた．実際に設置されている診療所は少ないと思われるが，これを契機に検討してはどうだろうか．後段のスマートウォッチをつけての運動は，呼吸器科領域のみならずさまざまな疾患の運動療法に有用だろう．

循環器科領域は，辻武志先生に電子聴診器とウェアラブル血圧計を中心に解説していただいた．診療の質向上と教育効果が期待できる電子聴診器がスタンダードになるのは必然かもしれないが，医師の象徴である首掛け聴診器がなくなるのは寂しい気がする．ウェアラブル血圧計は時計代わりにつけることで健康管理できる素晴らしいアイディアだと感じた．

東京ベイ・浦安市川医療センター 腎臓・内分泌・糖尿病内科の先生方には，糖尿病管理で一般的に行われている自己血糖測定を，血糖測定器をスマホアプリに連動させる方法と皮下センサー方式による連続記録方式の両者で解説していただいた．また蓄尿検査の有用性は分かるものの診療所の外来では行いにくいものだが，紹介していただいた器具を使えばお願いしやすくなると実感した．

島﨑亮司先生にはハイテク化が進んでいる在宅医療の現場を紹介していただいた．ポータブルエコーを使い分け，患者宅で血液ガス測定して持続注射を使った疼痛緩和と，現在の在宅医療はひと昔前とは大違いである．各地でICTを使った在宅診療関係者のネットワークが構築されており，地域包括ケアの推進に役立っている．

最後は臨床検査学全般の専門家としての視点で，自治医科大学臨床検査部の高浪勝利先生に診療所や在宅で使用できるPOCT機器と使いこなすための重要なポイントの紹介と併せて，現場で忘れがちな精度管理の法的規定について詳しく解説していただいた．

機器の進歩が診療の質を，さらに医療の在り方までも変えてきたのは事実だろう．さまざまな診療機器が診療所の外来，在宅現場で活用され，役に立っている中で，我々がそれぞれの機器について適応と使用方法等を熟知し，適切に使用することが重要であり，この特集がお役に立てば幸いである．